



# 小学生バドミントン通信

NO.28 2024.12

発行：日本小学生バドミントン連盟 会長 黒川 茂

若葉カップ男子優勝 RKR

## 選手を信じ、自主性を重んじて得た勝利

RKR 代表 東 峯 生

この度、私たちRKRは、京都府長岡京市にて開催された「第40回 若葉カップ全国小学生バドミントン大会」において、厳しい闘いを制し、3回目の出場で初優勝という結果を収めることができました。今回の優勝は、2013年の創設以来の悲願でもあり、それを成し遂げたことは誠に喜ばしいことです。

私たちは鹿児島県薩摩川内市にある高江未来学校のRKR専用体育館を拠点に、日々、練習に取り組んでおります。日ごろの練習で重んじているのは、選手の自主性。「自分のことは自分です」を基本とし、練習の時間も回数も、選手が保護者と相談のうえ、それぞれに決めています。プレーも手取り足取り指導することなく、上級生が下級生に伝え、教えるスタイル。選手は指導者の言葉より、憧れの上級生の言葉のほうがよく響きます。そして、上級生は伝えるにあたり、理論を下級生が理解できるよう言語化することで自身も同様のことを身につけることができ、コミュニケーション力も高まります。シングルの試合では、コートに立つのは自分ひとり。だからこそ、自分のことは自分で言い、考え、判断する訓練が必要になります。指導者としてできることは、こうした環境づくりだと考えております。

RKRでは、普段から結果にこだわっても結果に固執する必要はないの考えのもと、大会出場前も通常通りの練習を行います。日ごろの練習の成果が出せれば、おのずと結果はついてくる。この考えに選手も保護者もついてきてくれました。今大会では、初戦で福岡の名門チーム・岡垣ジュニアと対戦することになり、ここが一番の山場でした。出場選手の選抜やダブルスの組み合わせに苦慮しましたが、最終的には選手たちを信じて出場メンバーを決定しました。

今大会では団体戦ということもあり、選手はもちろん、保護者、コーチ陣、RKRが一丸となって試合に臨みました。特に印象的だったのは、大会期間中に選手がどんどん成長していったところ。試合前のアップから声出しまで、自分たちで考え高めている様子がうかがえました。また、大会では「応援を力にする」ことを伝えていますが、選手自ら一点取るときにガッツポーズをしたり、飛び跳ねたりして応援席やベンチを盛り上げていました。おそらく無意識ではありますが、その様子は選手が「声援を力に変える好循環」を生み出しているようでした。

大会後も優勝を機に、チーム力の高まりを感じています。練習も一体感のあるいい雰囲気のできるようになり、今大会はRKRにとって素晴らしいきっかけの大会となりました。

最後に、毎年この大会の開催にご尽力いただいております関係者の皆様に、心から感謝申し上げます。日ごろからご支援をいただいております皆様へ、今後ともRKR一丸となってさらに研鑽を重ねて参りますので、お力添えのほど何卒よろしくお願い申し上げます。

RKRの選手、保護者の皆様、コーチ陣へ、いつもありがとうございます。優勝おめでとう！





若葉カップ女子優勝 はりーあっぷジュニア

# 反 撃 開 始 ！

はりーあっぷジュニア 女子監督 中 口 直 人  
コーチ・文責 市 川 聡

はりーあっぷジュニアは、1998年に中口直人代表が立ち上げたクラブチームです。所在地の愛知県大府市には、市内の中学校すべてにバドミントン部があり、現在も多くの子どもたちがプレーしています。中口代表が40歳の年の5月にオープンしたバドミントンショップ『はりーあっぷ』は、『急いでガット張ります』をモットーに、多くのプレーヤーに愛されるお店です。

今から20年前、はりーあっぷジュニアの先輩が大府ジュニア女子として若葉カップで初優勝しました。その頃から練習メニューが大きく変わることなく、スピードを重視したプレースタイルで日々子どもたちは練習に励んでいます。また、当時の保護者が今でも練習を見てくれるなど、とてもいい環境でプレーしています。

5年前は、はりーあっぷとして男子が初優勝しました。その年は、今の6年生が入部した年でもあります。そんな憧れの先輩たちとともに、今まで一緒に練習してきました。

2年前、当時4年生だった現在の6年生3人は、初の全国の舞台で先輩達とともにはりーあっぷ女子として、若葉カップ初優勝を経験することができました。

そして迎えた昨年度の若葉カップ全国大会。決勝戦では、5単5複ともにファイナルの末惜敗し、惜しくも優勝を逃しました。この経験から、今年こそは必ず自分たちの手で全国優勝しよう！と必死に練習してきました。

そして今年の若葉カップ全国大会、岡垣ジュニア戦では6単は取られましたが、4単を取って1勝1敗に戻りました。しかし、5複6複ともに先にゲームを失うという、何度も窮地に立たされた試合でした。特に6複の1ゲーム目は29-30で取られ・・・手に汗握る展開でした。岡垣ジュニア戦は全体で3時間半にも及ぶ熱戦でした。

過去の対戦から苦戦が予想された準々決勝・準決

勝では、接戦を制することができました。選手たちは予選から準決勝まで試合毎に成長し、決勝は6単で始まり、6複で優勝を決めることができました。

タイトルにある『反撃開始！』とは、部旗にもある言葉で、取られたら取り返す、最後の1点まで諦めずに向かっていく姿勢を常に持つという願いが込められています。

昨年決勝で負けてからは、日々の練習の中で『反撃開始！』と言い続けてきました。6単松本は初戦以外全勝！6複牧田(み)・市川は打ち切りこそあれ全勝。6年生3人が本当に頑張ったことが優勝につながったと思います。4単牧田(つ)、5単長尾は全勝！5複の花堂・三ツ石は要所要所で貴重な勝ち星を取ってくれました。立派に育っている後輩たちです。全員が『反撃開始！』の言葉通り、全国の舞台で自分たちの力を出し切ってくれました。それに尽きます。

いつも支えてくれる保護者の皆様、相手をしてくれる中学生・高校生・大人・小学生男子メンバー達、そして厳しくも優しいコーチ陣の皆様、本当にありがとうございました。感謝の心を忘れずに、これからも頑張っていきたいと思います。

最後になりますが、小学生バドミントン連盟及び、長期間に渡り大会運営していただいた関係者の皆様に心より御礼申し上げます。





# 2024年度の大会記録



## 第40回若葉カップ全国小学生バドミントン大会

(主催：日本協会・日本小学生連盟・長岡京市)

2024年7月25日～28日／京都府長岡京市・西山公園体育館 ほか

### 【男子の部】

- 優勝 RKR (鹿児島県) ・ ・ 初優勝
- 2位 永井クラブ (岡山県)
- 3位 加古川JBC (兵庫県)
- 渋谷ジュニア (東京都)

### 【女子の部】

- 優勝 はりーあつぷ (愛知県) ・ ・ ・ 2回目
- 2位 FANATIC (滋賀県)
- 3位 JBCふちゅう (富山県)
- ミッキーズ (岡山県)

## 第25回ダイハツ全国小学生ABCバドミントン大会

(主催：日本協会・日本小学生連盟)

2024年8月10日～12日／岐阜県岐阜市 岐阜メモリアルセンター ほか

### 【男子Aグループ(5・6年生)】

- 優勝 平嶋 天嘉 (和歌山県)
- 2位 角倉 蓮太 (愛知県)
- 3位 玉城 春真 (愛知県)
- 川上 輝琳 (島根県)

### 【女子Aグループ(5・6年生)】

- 優勝 阿波柚子菜 (福岡県)
- 2位 舩田 舞羽 (富山県)
- 3位 浅野 莉子 (愛知県)
- 尾田菜乃遥 (石川県)

### 【男子Bグループ(3・4年生)】

- 優勝 松木 琉森 (東京都)
- 2位 池山 和輝 (三重県)
- 3位 松浦 直翔 (宮城県)
- 川崎 亜城 (鹿児島県)

### 【女子Bグループ(3・4年生)】

- 優勝 宮下 蒼夏 (愛知県)
- 2位 田中 花和 (愛知県)
- 3位 木村 和想 (岐阜県)
- 木城 悠 (茨城県)

### 【男子Cグループ(1・2年生)】

- 優勝 杉本 達哉 (岐阜県)
- 2位 古泉 陽翔 (福岡県)
- 3位 八代啓士朗 (滋賀県)
- 中村 勇人 (千葉県)

### 【女子Cグループ(1・2年生)】

- 優勝 堀口 祈莉 (熊本県)
- 2位 劉 キ子 (千葉県)
- 3位 中谷 莉緒 (岡山県)
- 津國 和來 (兵庫県)



## ジュニア育成に携わる者にとっての1年

パリオリンピックでは、2つの銅メダルを獲得し盛大のうちに終了しました。日本バドミントン協会も次の4年後を見据え取り組まれることと思います。私たちジュニア育成者にとってはその点で言えば毎年が変化です。子どもたちの成長、変容のスピードは大人とは比べ物にならないからです。部員を募り、バドミントンに興味を持たせ、飽きさせない工夫をしながら根気強く指導していきます。そして次のカテゴリーに繋げる事を毎年サイクルとして行っています。結果に即結びつくことはなくても、私たちがそうだったように、バドミントンを通して様々なことを伝えてあげたいものです。

【日本小学生バドミントン連盟 広報部 吉浦 健二郎】



# 令和6年度日本小学生バドミントン連盟 強化部の事業報告

日本小学生バドミントン連盟強化部員 永井大吉  
松原卓也

## 1. 令和6年度 第12回U-13選抜強化合宿

令和6年7月28日～31日（京都府長岡京市・西山公園体育館）

役員6名、コネックス2名、選手60名

## 2. 令和6年度 第23回選抜強化合宿

令和6年8月12日～15日（岐阜県岐阜市・OKBぎふ清流アリーナ・岐阜メモリアルセンター）

役員11名、選手51名

若葉後、ABC後の合宿共に、練習は「ロブの精度を上げきっちりとコントロールできるように」をテーマに取り組んでいきました。U-13のナショナル合宿でも、ロブの精度を上げることに取り組んでいて今回はその反復練習になりました。また、ABC後の合宿では、舩田さんがその重要性について指導してくださいました。小学生の多くがクロスロブを多用し、相手をすぐにクロスで追い込むという戦法が見られます。将来的にもストレートロブの精度は重要であることから、今回はクロスではなくストレートのロブの高さ、そしてストレートロブで相手を崩すといったことを繰り返し行いました。ロブに関しては女子選手のほうが精度もコントロールも安定しているように感じました。今後もロブの精度を意識してもらい指導していきたいと思えます。

その他、シャトル置きやシャトルを使っの動体視力を鍛えるトレーニングも行いました。最初は中々うまくいかない選手がいましたが、慣れてくるとほぼ全ての選手が対応できるように

なりました。試合では、各選手集中して、本番により近い形で取り組んでいたように感じました。

日本小学生連盟強化部はバドミントンのプレーに関する指導だけではなく、シャトルの返し方や、コート内外での挨拶の仕方などプレー以外のことを当たり前にできるように選手に伝えていきたいです。

全国から未来のオリンピック選手を夢見る子どもたちが集まり、互いに切磋琢磨していく日小連合宿が、子ども達、指導者の皆さんに今後も貢献していきたいよう、内容の充実を図りながら、魅力あるものにしていきたいと思えます。



日本小学生バドミントン連盟 事務局

〒068-0025 北海道岩見沢市5条西13丁目20番地 下野和義 気付

TEL：0126-25-0089 FAX：0126-25-4710

<http://www.syoubad.jp> E-mail：shimono@syoubad.jp